

Briefing Transcription

|| 2025 年 6 月期中間期決算説明会文字起こし ||

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 2 月 14 日 (金)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 出演者	01
■ 決算説明	02

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

■ 出演者

株式会社タウンズ
代表取締役社長

野中 雅貴様

■ 決算説明



■ タウンズ 野中

本決算説明資料の構成は、大きく 4 つのパートに分かれています。

1 点目は、会社・事業の概要です。

こちらのパートは、前回第 1 四半期決算説明資料においても開示しております。当社は上場して間もないため、基本的な会社説明として、これらの内容を引き続き掲載しています。

2 点目は、進行中の 2025 年 6 月期第 2 四半期の決算概要です。

2024 年 7 月に新型コロナウイルス感染症の第 11 波が発生し、9 月頃に収束しました。その後はインフルエンザも新型コロナウイルスも流行の端境期にありましたが、12 月中旬から、特にインフルエンザの感染が急速に拡大した中で、当社の第 2 四半期業績がどのように着地したかをご説明しています。

3 点目は、2025 年 6 月期の通期業績予想についてです。

今後の感染症流行状況及び業績への影響水準を現時点で正確に見通すことが難しく、現時点では 2024 年 8 月 13 日に開示した業績予想から変更しておりませんが、当社を取り巻く事業環境を改めてご説明しながら、業績予想の前提、業績予想の進捗状況、株主還元方針から直近のトピックスまでを掲載しています。

なお、中期経営計画につきましては、足元の事業環境を正確に見極めた上で、様々な取り組みを一貫した戦略としてまとめ上げ、2025 年 8 月の本決算発表のタイミングに合わせて開示させていただきたいと考えております。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明



01. 会社・事業概要	P.02
02. 2025/6期上半期決算概要	P.11
03. 2025/6期業績予想	P.22
04. Appendix.	P.30

2

©TAUNS Laboratories, Inc.

まず、会社・事業の概要をご説明します。

会社概要

社名	株式会社タウンズ (英語名: TAUNS Laboratories, Inc.)		
代表者	代表取締役社長 野中 雅貴		
創業年月 設立年月・ 本社所在地	1987年4月 (グループの西端に存続法人の設立年月) 静岡県伊豆の国市神島761番1		
資本金	247百万円 (2024年12月31日時点)		
役員構成 (2024年12月31日時点)	代表取締役社長 野中 雅貴 取締役 内山 龍雄 取締役 永井 淳平 取締役 伊藤 政宏	社外取締役 三品 聖範 社外取締役 千葉 理 監査役 遠藤 佳季 社外監査役 中川 真紀子 社外監査役 Caroline F. Benton	
株主構成 (2024年12月31日時点)	上場前からの大株主 創業者: 28.4% 金融投資家: 45.1% 上場後/その他の株主: 24.5%		
事業内容	体外診断用医薬品、研究用試薬等の開発、製造及び販売・輸出入 主要製品は感染症の診断検査キット		
売上規模	18,434百万円 (2024/6期)		
従業員数	334名 (2024年12月31日時点)		
総資産	36,012百万円 (2024年12月31日時点)		
拠点	本社・神島工場、清水町事業所・R&Dセンター、東京オフィス		
主な取引先	スズケン他		



©TAUNS Laboratories, Inc.

3

当社の創業は1987年で、創業者は現CEOの野中の父です。本社兼工場の所在地は、静岡県の伊豆の国市です。その他の拠点として、静岡県清水町にR&Dセンター、日本橋に東京オフィスがあります。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

経営理念

私たちタウンズは、独自の体外診断用医薬品により、人々の生活に安心と潤いを届けます。
そのために、技術・知識を集積し、新たな製品の開発、品質改善に取り組み続けます。

診断技術で、安心な毎日を。

何気なく過ぎていくあたりまえの毎日も、
いつもとは違う特別なひとときも。
変えているのは、揺るぎない安心。
私たちタウンズは、独自の診断技術を追求め、
疾病の診断、早期発見のお手伝いをしています。
ひとりひとりの不安を取りのぞくことで、
世界中で未来への見通しをよくすることで、
安心な毎日を支え続けます。

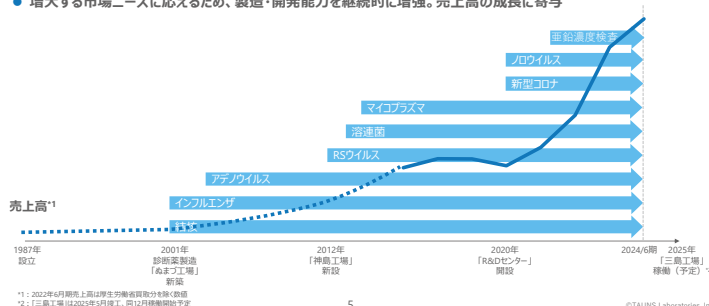
4

©TAUNUS Laboratories, Inc.

当社は経営理念として、「体外診断用医薬品（IVD）により、人々の生活に、安心と潤いを届けること」を掲げています。IVD（In Vitro Diagnostics）とは、尿や血液など、人体から採取した検体を用いて、疾患の検査をする製品です。当社はその IVD の中でも、POCT（Point of Care Testing）という「患者のそばで検査され、すぐに結果が出る製品」を主に扱っています。いわゆる抗原検査は、典型的な POCT の一つです。

沿革

- 2000年代初頭から、豊富な抗原検査のラインナップを順次展開
- 増大する市場ニーズに応えるため、製造・開発能力を継続的に増強。売上高の成長に寄与



5

©TAUNUS Laboratories, Inc.

当社の沿革です。当社は 2001 年に感染症抗原検査事業に参入したのち、お客様のニーズにお応えしながら、順次製品ラインナップを拡充して、成長を続けてきました。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

事業内容

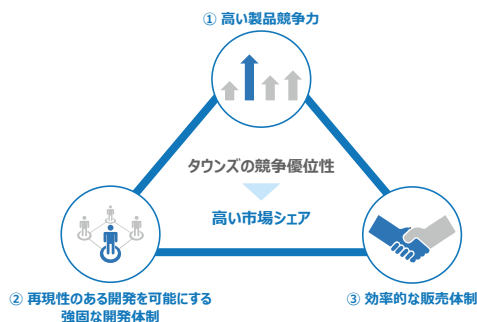
- 主に、感染症臨床検査用の抗原検査キットを開発・製造。インフルエンザを始め、アデノウイルスや新型コロナなど多くの感染症項目において「イムノエース」ブランドの製品を展開
- 血中亜鉛濃度検査キットを皮切りに、慢性疾患等の感染症以外の領域へ進出中。感染症流行に左右されない事業基盤の確立を目指している

主な製品群



当社の主要製品は、新型コロナやインフルエンザ等の、感染症の抗原検査キットです。
こちらにお示ししているように、幅広い感染症項目をカバーしています。

タウンズの3つの競争優位性

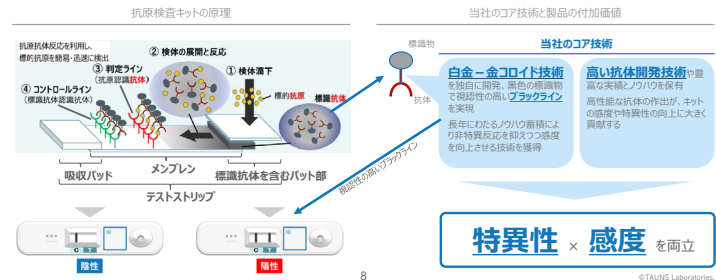


当社の製品が、医療機関から幅広くご支持をいただいている背景として、「製品競争力」「開発体制」「販売体制」の3つの視点から、当社の競争優位性についてご説明します。

決算説明

抗原検査キットの原理・当社技術の強み

- 数多くの自社抗体の開発実績（特許化含む）や、独自技術である白金－金コロイド等の高い技術力を有する
- 技術力を活かし、特異性と感度を両立した高品質な製品を開発。さらには複数感染症間の幅広い検体共用の実現など、医療現場と患者双方にとって価値の高い製品を供給している



まず、当社の主力製品である抗原検査についてご説明します。

左側の図は、抗原検査キットの基本原理を示しています。図①のパッド部には、抗体と、目印になる標識物とを結合した「標識抗体」が浸み込ませてあります。鼻や喉から採取した検体を、図①の「パッド部」に滴下すると、検体中に含まれるウイルスなどの「抗原」が、パッド部の「標識抗体」と、いわゆる抗原抗体反応により結合します。よって、たとえばインフルエンザ検査キットであれば、インフルエンザウイルスという抗原に対してのみに、高い感度で結合する「抗体」に関する技術が、まずは重要となります。

抗原も抗体も、極めて小さいミクロの世界ですが、標識抗体には目印となる「標識物」があらかじめ結合されています。「標識物」により、ミクロの世界の抗原抗体反応が、「目視」できるようになります。よって、「標識物」も、抗原検査キットにおいて非常に重要な技術となります。

滴下された検体は、毛細管現象により、図の右から左へと流れていきますが、もし検体中に標的の抗原が含まれていれば、図の①から②にかけて、「抗原 - 抗体 - 標識物」という３つが結合した状態が形成され、検体は図③の「判定ライン」へと流れていきます。

図③の「判定ライン」には、更に別の抗体が、ライン上に多数、固定されています。抗原を含む検体が図③に達すると、検体中の抗原がライン上に固定された抗体と結合し、「(固定された) 抗体 - 抗原 - 抗体 - 標識物」という状態で、ライン上に数多くの標識物が集積します。一定時間経過後に、多数の標識物がライン上に集積することで判定ラインが目視で確認出来れば陽性、判定ラインが見えなければ陰性、と判断することができます。

これが抗原検査キットの原理です。

さて当社は、このような抗原検査キットのコア技術である、「抗体」と「標識物」に関して、それぞれ独自の強固な技術基盤を確立しています。抗体に関しては、自社開発に加えて、資本提携先との共同開発を行い、感度と特異性を高い水準で両立した優れた抗体ライブラリーを確立しています。本年においては、抗原検査キットに広く使われているマウス由来の抗体に替えて、独自開発のウサギ由来の抗体を活用し、より高い感度を実現した新型コロナウイルス検査キット「イムノエース® SARS-CoV-2 Ⅲ」を、新たにローンチしています。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

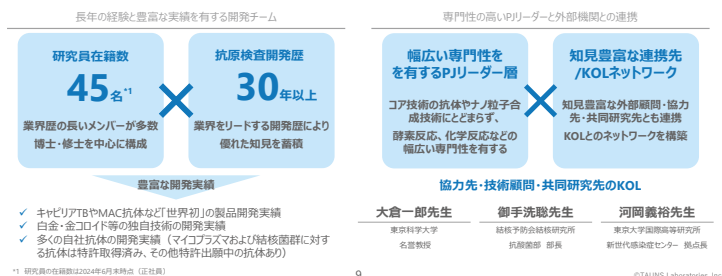
決算説明

抗原検査キットの標識物としては、一般的には「金コロイド」という金の微粒子が使用されており、「金コロイド」は赤色の判定ラインを形成します。これに対し、当社が独自に開発した「白金 - 金コロイド」は、より視認性の高い黒色の判定ラインを形成し、当社キットの高い感度を支えています。

当社はこのような技術基盤を活用して、品質の高い製品を供給しています。

再現性のある開発を可能にする強固な開発体制

- 豊富な業務経験と高度かつ多様な専門性を有する開発チームが、開発活動を牽引
- 長年の研究開発を通して社内に蓄積されたノウハウに加え、社外からも知見を得ることで迅速かつ革新的な開発を実現



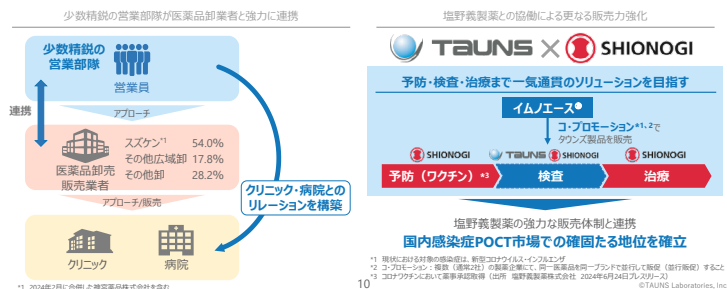
続いて、当社の開発体制についてご説明します。

当社はこれまで30年以上にわたり、抗原検査の研究開発に取り組んできました。
長年の研究開発で蓄積された各種ノウハウと、様々な専門分野のベテラン研究員、更には社外の知見豊富な研究者との協力体制が、当社の高い技術力の源泉です。

これらにより、抗体関連技術や「白金 - 金コロイド」技術などのコア技術の開発をしている他、結核などの抗酸菌検査の分野においては、「世界初」となる製品の開発実績を複数有しています。

商流と営業体制

- 少数精鋭の営業員が、卸業者と強固な協力関係を構築。主要な感染症抗原検査キットで国内トップクラスのシェアを獲得
- 塩野義製薬との協働により、感染症対策において「予防→検査→治療」まで一貫通のソリューションを提供、クリニックに強い塩野義の販売力と、病院に強い当社営業員のシナジーにより、国内感染症POCT市場での地位を更に強固にする



次に、当社の販売体制についてご説明します。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

当社の営業員は、10 年以上の業界経験を有するベテランが中心です。少人数体制でありながら、主力製品で国内トップの市場シェアを獲得しており、営業チームの生産性は非常に高い水準といえます。当社は、スズケン様をはじめとした卸業者を通して医療機関へキットを販売するため、卸業者との協力関係が販促のポイントになります。

また当社は 2022 年より、塩野義製薬様と、当社製品の販売に関する協働を行っています。ワクチンと治療薬を有する塩野義製薬様と、POCT 製品を有する当社の協働により、「予防→診断→治療」まで、感染症対策を一気通貫で行うことができるようになりました。当社は、塩野義製薬様の販売力を活用することで、国内感染症 POCT 市場における確固たる地位を確立したいと考えています。

INDEX	01. 会社・事業概要	P.02
	02. 2025/6期上半期決算概要	P.11
	03. 2025/6期業績予想	P.22
	04. Appendix.	P.30

ここからは、2025 年 6 月期第 2 四半期の当社決算概要についてご説明します。

2025/6期中間期ハイライト

- ✓ 新型コロナに関しては、7月に発生した第11波は前年同期比で約4割程度規模が減少。11波収束後の10月から11月にかけては前年同様に端境期となったが、12月に入り定点観測値は底を打って上昇に転じ、第12波が到来した。当社は24年6月期比で新型コロナ単品検査キットのシェアを大きく伸ばし、市場規模の減少があらながらも売上を大きく増加させた
- ✓ インフルエンザに関しては、12月上旬までは流行が一部地域に限られていたが、その後感染が急速に拡大し、年内最終週における定点観測値は現行の統計を取り始めた1999年以降で最大の値となった。市中の検査薬や治療薬が不足するなど、インフルエンザの流行が社会的な話題となったが、一方で多くの期間を通じてインフルエンザが流行した前年同期と比較すると、当中間期全体の流行規模は縮小した。当社は当中間期を通じてシェアを高く維持したが、売上は前年同期を下回った
- ✓ インフルエンザの流行規模が前年同期よりも小さかったことを受け、コンボ検査キットの市場規模についても前年同期比でやや減少した。ただし、一部代理店による年末に向けた在庫確保の動きもあり、売上としては前年同期を上回って着地した。単価については、期初に懸念したような下落は当中間期においては見られなかった
- ✓ 当中間期においては小幅に増収。各段階利益は増益。前年同期においては相対的に利益率が低いインフルエンザ検査キットの売上を一定含んでいたが、当期は利益率が高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの売上が増加したことが主因

株式会社タウンス | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

2025/6期中間期の業績

- 新型コロナウイルス、インフルエンザのいずれも前年同期と比較すれば流行規模が小さかったが、シェアの改善により売上は前年同期を上回って着地した
- 利益率の高い新型コロナ単品検査キット、コンボ検査キットが売上に占める割合が高まったこと、販管費の水準も前年実績とほぼ同等で推移したことから、各段階利益率は向上した。

(百万円)	2023/6期中間期		2024/6期中間期		2025/6期中間期		
	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率	前年比
売上高	10,432	-	11,617	-	11,981	-	3.1%
売上総利益	6,643	63.7%	7,932	68.3%	8,720	72.8%	9.9%
営業利益	4,422	42.4%	5,854	50.4%	6,538	54.6%	11.7%
経常利益	4,414	42.3%	5,877	50.6%	6,525	54.5%	11.0%
当期利益	3,013	28.9%	4,219	36.3%	4,686	39.1%	11.1%
EBITDA	4,731	45.4%	6,192	53.3%	6,888	57.5%	11.2%

13

©TAUNUS Laboratories, Inc.

当社の 2025 年 6 月期中間期間は、前年同期比で増収増益にて着地しました。売上高は前年同期から小幅な増収となりましたが、第 1 四半期終了時点では前年同期を小幅に下回っておりましたので、第 2 四半期で巻き返した形となりました。

また、粗利率の改善により各段階利益率が改善していますが、この大きな要因はセールスミックスの変化です。インフルエンザ検査キットに対して相対的に利益率の高い新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの、売上高に占める割合が高まったことに依ります。新型コロナのみが流行している時期においては新型コロナ単品検査キットが用いられましたが、インフルエンザと新型コロナが同時期に流行している局面においては、医療機関においてコンボ検査キットの選択率が高まっているものと見受けられます。減価償却費を含む販管費には特筆すべき大きな変化無く推移しており、営業利益や EBITDA についても順調に推移しております。

主要製品別の売上高（中間期）

- 新型コロナウイルス、インフルエンザのいずれも流行水準が前年中間期対比で小さかったが、新型コロナ単品検査キットについてはシェアを拡大することで売上を増加させた。一方、インフルエンザについてはコンボ検査キットに需要の輪足が移ったこともあり、シェアの拡大だけでは補いきれないほど市場規模が縮小したことから、当社売上も減少した
- コンボ検査キットについては、市場規模は小幅に減少、シェアは小幅に増加となったが、年末に一部代理店による在庫確保が行われた際に対応可能な十分な在庫を有していたことから、売上を伸ばすことが出来た

(百万円)	2023/6期中間期		2024/6期中間期		2025/6期中間期	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
新型コロナ単品検査キット	7,188	68.9%	3,043	26.2%	3,945	32.9%
新型コロナ/インフルエンザ コンボ検査キット	1,688	16.2%	4,210	36.2%	4,579	38.2%
インフルエンザ検査キット	508	4.9%	2,689	23.1%	2,080	17.4%
その他	1,048	10.0%	1,674	14.4%	1,375	11.5%
合計	10,432		11,617		11,981	

14

©TAUNUS Laboratories, Inc.

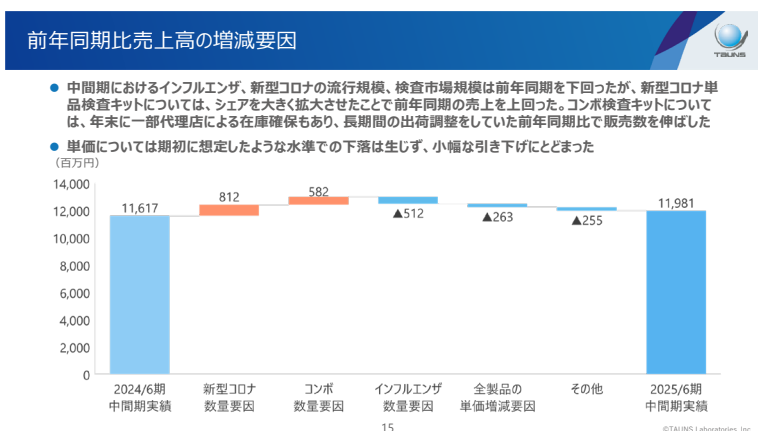
主要製品別の売上高（中間期）を前年同期と比較すると、新型コロナ単品検査キットとコンボ検査キットにおいては増収、インフルエンザ検査キットにおいては減収となりました。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

当中間期においては、7 月に発生した新型コロナ第 11 波の流行規模（定点報告数の累計ベース）は、前年同期の第 9 波に対して 4 割程度小さかったものの、当社はシェアを伸長させることで販売数を確保しました。一方でインフルエンザに関しては年末にかけて瞬間的には観測史上最大値となる流行が報道され、大流行との印象があるかもしれませんが、中間期間を通してみれば前年よりも 5 割程度小さい流行規模であり、こちらはシェアを拡大させたものの補いきれずに減収となりました。

また、コンボ検査キットについては、シェアを大きく伸ばすには至らずとも堅持しており、医療機関においてコンボ検査キットの選択率が高まっている中で、しっかりと販売数を確保することができました。



こちらのスライドは前年同期比での売上高の増減要因を説明したものです。前述のとおりインフルエンザ検査キットの数量減少、各製品の単価下落によるマイナス影響がありながらも、新型コロナ単品検査キットのシェア向上による販売数量の増加、コンボ検査キットのマーケット拡大分の着実な取り込みで補って、増収となっています。

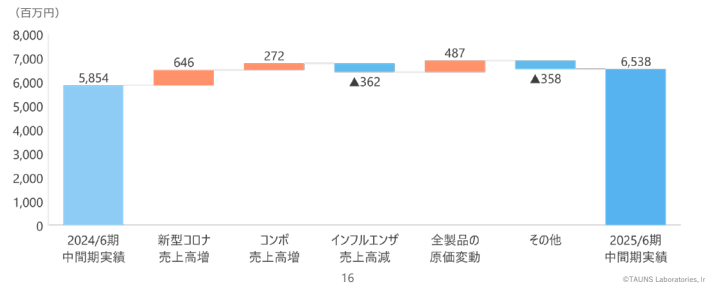
業績予想策定時においては、競争環境の変化から新型コロナ単品検査キット及びコンボ検査キットの販売単価を、前年通期実績に対して 10% 程度下落する想定としていましたが、当中間期の実績においてはそのような大きな低下は見られていません。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

前年同期比営業利益の増減要因

- 前述のとおり新型コロナ単品検査キット、コンボ検査キットの売上が増加したことが増益に一定寄与した
- セールスマックスの改善効果のほか、新型コロナ単品検査キットにおいては、低コスト、高品質なウサギ抗体を導入したことも原価低減に貢献

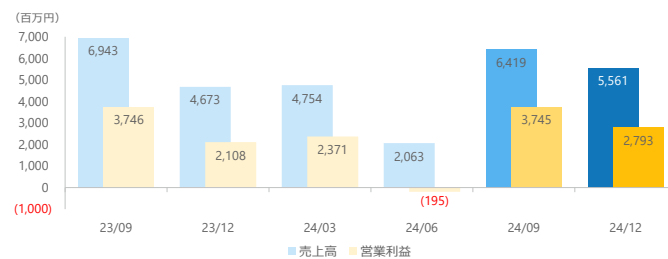


こちらのスライドは前年同期比で営業利益の増減要因をご説明したものです。主要 3 製品の売上高増減については前述したとおりですが、前年同期と比較すると、より利益率の高い製品の売上構成比が増えたことによるセールスマックス要因も利益を下支えしました。

また、新型コロナ単品検査キットにおいては、ウサギ抗体を使用した新製品の投入により、検査精度の向上と原価低減を両立させたことが、営業利益増に一定貢献しております。

四半期毎売上高推移

- インフルエンザの流行が早期に開始した昨年度と比較すると、第1四半期の売上高は減少した
- 一方で、後述の通り第1四半期末時点において十分な在庫を確保した上で第2四半期に入ったため、旺盛な冬の需要を取り込む形で第2四半期の売上高は前年同期よりも拡大した



こちらは新たなスライドですが、四半期ごとの売上と営業利益の推移を一覧化しました。前年の第 2 四半期においては、製品の供給制約により四半期間を通して出荷調整を余儀なくされましたが、当期においては一定以上の在庫水準を維持した結果として、年末の需要の急拡大に対応できました。在庫水準と四半期売上との関係性については、後述いたします。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

主要製品別の売上高 四半期間 (10-12月)

- 新型コロナウイルス検査キットの市場規模は前年同期比で減少。当社シェアは高水準を維持したものの、売上は前年同期と同等で着地した
- 年末にかけたインフルエンザの急速な感染拡大に伴い、コンボ検査キット及びインフルエンザ検査キットの出荷が伸び、前年同期を上回って着地した。また、これらの製品については未出荷の受注を抱えて越年した

(百万円)	2023/6期2Q		2024/6期2Q		2025/6期2Q	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
新型コロナウイルス検査キット	1,831	44.6%	668	14.3%	661	11.9%
新型コロナウイルス/インフルエンザ コンボ検査キット	1,402	34.1%	1,730	37.0%	2,565	46.1%
インフルエンザ検査キット	389	9.5%	1,402	30.0%	1,679	30.2%
その他	482	11.7%	871	18.6%	654	11.8%
合計	4,106		4,673		5,561	

18

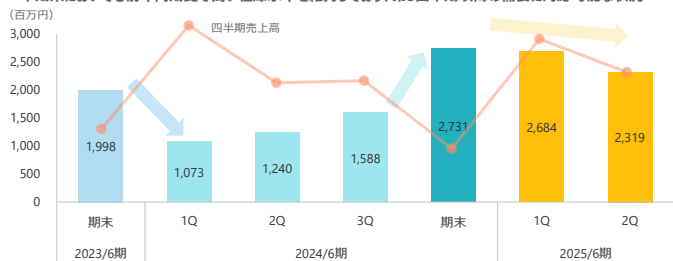
©TAUNUS Laboratories, Inc.

こちらは第2四半期間における主要製品別の売上です。ポイントとしては、第2四半期においては12月中旬までインフルエンザと新型コロナウイルスのいずれも流行水準が低位でしたが、12月下旬においてインフルエンザ感染が急速に拡大したことから、インフルエンザ検査キットとコンボ検査キットの両方に対する受注が大幅に伸びました。

また、それらの製品については当社営業日の関係から未出荷の受注を一定程度抱えて越年することとなりましたので、一部は1月に売上を持ち越しました。

四半期末在庫水準の推移

- 過去においては、インフルエンザ、新型コロナウイルスの流行端境期である第4四半期に積み上げた在庫を、翌第1四半期の需要が旺盛な時期に出荷することにより、第1四半期の収益が相対的に大きくなる傾向にある
- 一方で当期については、第1四半期末時点において十分な在庫を確保した状態で冬季の需要に対応し、第2四半期末においても前年同期比で高い在庫水準を維持しており、第3四半期以降の需要に対応可能な状況



19

©TAUNUS Laboratories, Inc.

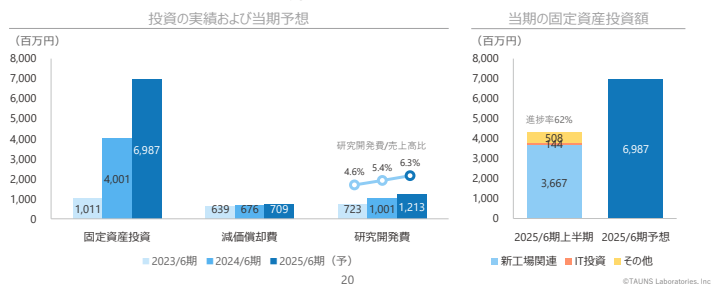
こちら今回から追加した新たなスライドですが、四半期末の在庫水準（金額ベース）と四半期売上高の推移をお示しました。前年同期においては、急激な需要拡大に伴い在庫水準が低くなっていたのに対して、当中間期間においては期初と同水準の在庫水準を維持しており、12月の受注拡大に対応できる状態となっていました。

株式会社タウンス | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

投資の状況

- 当期の固定資産投資額は、70億円程度まで拡大を想定
- 内訳としては、新工場関連の設備投資が大半となっているほか、ERPなどのIT投資、スタートアップへの資本提携（出資）、設備更新などの必要な投資に取り組んでいる



こちらは投資の状況です。今回の資料から、当期の固定資産投資額の進捗率及び主な内訳を開示しました。

25/6 月期の固定資産投資額としては総額で約 70 億円を予定しており、内訳としては前期においても計上した三島の新工場に関する設備投資に加え、ERP などの IT 投資、新工場稼働までの増産投資、神島工場の新倉庫建設、R&D 関連などを想定しています。

研究開発費については、次世代 POCT 技術の「デジタルイムノアッセイ」の研究開発などに伴う費用の増加が主要因ですが、その他にも新抗体開発にかかる費用や、開発本部の全体的な体制強化による人件費増加などを含んでおります。

貸借対照表

(百万円)	2024/6期 中間期	2024/6期	2025/6期 中間期	(百万円)	2024/6期 中間期	2024/6期	2025/6期 中間期
流動資産	16,977	16,915	19,568	流動負債	10,432	10,474	10,820
現金及び預金	5,413	9,424	7,573	買掛金	1,243	1,482	1,348
売掛金	8,035	2,706	6,793	短期借入金	4,500	4,500	4,500
商品及び製品	1,240	2,731	2,319	1年内返済予定の長期借入金	732	732	732
仕掛品	1,071	846	1,263	未払法人税等	1,659	1,706	1,937
原材料及び貯蔵品	1,148	1,140	1,421	未払消費税等	0	387	123
その他	67	66	198	その他の流動負債	2,298	1,665	2,179
固定資産	9,146	12,345	16,444	固定負債	2,983	5,120	8,901
有形固定資産	4,619	7,905	11,768	長期借入金	1,870	4,307	8,083
無形固定資産	3,810	3,720	3,827	繰延税金負債	922	619	619
投資その他の資産	716	719	848	その他の固定負債	191	193	199
資産合計	26,123	29,261	36,012	負債合計	13,416	15,594	19,721
				純資産合計	12,707	13,666	16,291
				負債純資産合計	26,123	29,261	36,012

21 ©TAUNUS Laboratories, Inc.

こちらは貸借対照表の前期末及び前年同期末時点との比較です。長期借入金と有形固定資産の増加は、新工場にかかるものです。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

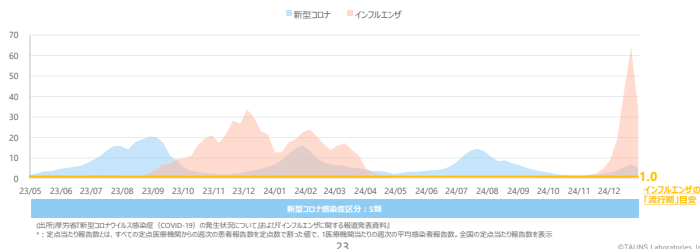
決算説明

INDEX	01. 会社・事業概要	P.02
	02. 2025/6期上半期決算概要	P.11
	03. 2025/6期業績予想	P.22
	04. Appendix.	P.30

ここからは、2025 年 6 月期の業績予想についてご説明します。

5類移行後の新型コロナとインフルエンザの流行状況

- 新型コロナの定点当たり報告数を見ると、5類移行後も感染の拡大と縮小を繰り返しつつも、インフルエンザにおける流行入りの目安とされる報告数「1」*を下回ることなく継続しており、常時流行状態にあるといえる
- 第2四半期における新型コロナ流行水準は前年同期比で約2割、インフルエンザの流行水準は約5割減少した規模となっており、それに伴って検査キット市場規模も減少



こちらの図は、新型コロナとインフルエンザの流行状況を示す、定点当たり報告数の推移です。新型コロナは、23 年 5 月の 5 類移行後においても、流行規模としては拡大と縮小を繰り返しつつも、インフルエンザでいうところの「流行期入り」の目安となる、定点数 1 を常に上回って推移しています。

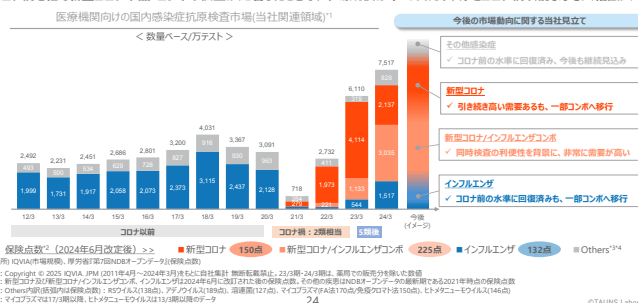
2025 年 6 月期においては、前年における第 9 波と同様に第 11 波が発生したのち、9 月ごろに収束しました。定点報告数（累計）ベースでは、前年と比較して 4 割程度小さく推移しました。一方で、インフルエンザは、12 月中旬までは沖縄など一部地域の流行に止まっておりましたが、12 月下旬に入ると急速に感染が拡大し、瞬間的には定点観測値が観測史上最大の 64 を記録しました。しかしながら四半期を通して流行していた前年と比較すると、定点報告数（累計）ベースでは、前年比で 5 割程度小さな流行規模でした。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

コロナ禍を経て拡大した、医療機関向け国内抗原検査市場

- 医療機関向けの国内抗原検査市場規模は、コロナ禍以前はインフルエンザを中心に年間30百万テスト前後で推移
- コロナ禍を経て新型コロナ単品・コンボの検査が定着したことで、市場規模は年75百万テストとコロナ前よりも大幅拡大



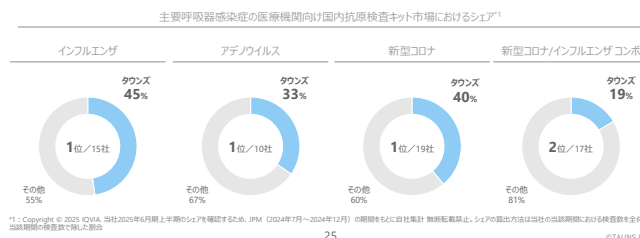
こちらは、国内の医療機関向けの、主要な感染症抗原検査キットの市場規模の推移です。

いわゆるコロナ禍の前は、青いボックスのインフルエンザを中心に、年間 30 百万テスト前後の抗原検査がなされていました。コロナ禍を経て、オレンジの新型コロナや、薄いオレンジの新型コロナとインフルエンザのコンボ検査キットが加わったことで、足元の市場規模は年間 75 百万テストと、コロナ前と比べて大きく成長しています。特に、新型コロナとインフルエンザのコンボ検査キットの市場規模が急成長しています。

これらを踏まえ、期初に策定した当社の 2025 年 6 月期業績予想の前提として、抗原検査キットの市場規模について、基本的には 2024 年 6 月期と同等程度を想定しています。そのうえで、2024 年 6 月期における長期間の出荷調整への反省を踏まえ、需要の旺盛なコンボ検査キットを中心に供給体制を更に強化し、市場シェアを拡大することを目指しています。

高い市場シェアと拡大余地

- インフルエンザ、アデノウイルス及び新型コロナの抗原検査キット市場で、当社は国内トップシェア
- インフルエンザ検査キット、新型コロナ単品検査キットにおいても24年6月期よりシェアは大幅に伸長
- 一方で今期の成長ドライバーに掲げていたコンボ検査キットについては、いまだシェアが回復途上。ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社との販売提携や改良品の投入により、今後のシェア奪回を目指す



こちらは、当社主要製品の、足元の国内市場シェアです。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

当社はこれまで継続的に市場シェアを拡大しており、2024 年 6 月期においては、新型コロナ単品検査キット、インフルエンザ単品検査キット、アデノウイルス検査キット等の主要製品において、国内トップのシェアを有していました。足元の 2025 年 6 月期第 2 四半期においても、それらの主要製品が国内トップのシェアを維持しており、新型コロナ単品検査キット、インフルエンザ単品検査キットについてはさらにシェアを伸ばすことができました。

今期以降の成長ドライバーの一つとして、相対的にシェアの低いコンボ検査キットのシェア拡大を掲げておりますが、未だ途上にあります。今後に向けては、ウサギ抗体を使用した改良製品の投入や、後述のロシュ・ダイアグノスティクス社とのコ・マーケなどによる巻き返しを図っております。

業績予想

- 現時点では2024年8月13日に公表した業績予想からの変更なし
- 12月におけるインフルエンザの定点観測史上最大規模の流行を受けて、年末年始にかけて当社検査キットに対する強い需要が発生し、多くの受注をいただいたことから在庫水準は低下。1月下旬まで出荷調整が継続
- 一方で、2月以降のインフルエンザや新型コロナの流行状況が見通しづらく、それによる業績予想への影響水準を正確に見積もることが難しい状況。今後見通しが立った際に修正が必要と判断された際には速やかに開示したい

(百万円)	2024/6期 予想 ①	2024/6期 実績 ②	2025/6期 予想 ③	増減 ②/③	利益率
売上高	17,553	18,434	19,273	4.5%	-
営業利益	7,891	8,030	8,308	3.5%	43.1%
経常利益	7,741	7,840	8,316	6.1%	43.1%
当期利益	5,550	5,774	6,019	4.2%	31.2%

業績予想策定にあたり、主に以下を想定

- ✓ コンボ検査キットに関する生産能力の増強、塩野義製薬との提携加速を踏まえ、市場シェアおよび当社売上に占めるコンボ検査キットの構成割合が増加する
- ✓ 新型コロナ関連製品において、価格競争に伴う一定の価格低下圧力が発生

こちらは、2025 年 6 月期の業績予想数値ですが、2024 年 6 月期決算説明資料で開示したものを再掲しています。

医療機関における治療薬や検査薬不足が報道されるなど、多くの方々から感染症の流行動向にご注目いただいておりますが、現時点では 2 月以降の流行水準やその業績への影響を正確に見通すことが難しいことから、業績予想を据え置きました。今後、見通しが立った際に修正が必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

業績予想の進捗

- 通期予想売上高に対する進捗率は62.2%となっており、昨年度実績値と同程度の進捗
- 利益面においては、利益率の高い新型コロナ単品検査キット、コンボ検査キットの利益貢献が大きく、前年同期よりも高い進捗率となった

(百万円)	2024/6期			2025/6期		
	通期実績	中間期実績	進捗率	通期予想	中間期実績	進捗率
売上高	18,434	11,617	63.0%	19,273	11,981	62.2%
営業利益	8,030	5,854	72.9%	8,308	6,538	78.7%
経常利益	7,840	5,877	75.0%	8,316	6,525	78.5%
当期利益	5,774	4,219	73.1%	6,019	4,686	77.9%

27

©TAUNUS Laboratories, Inc.

通期業績予想に対する第 2 四半期の進捗としては、売上高で 62.2%、営業利益で 78.7% となっており、特に営業利益は前年同期と比べても順調な進捗となっております。

株主還元

- 現時点では2024年8月13日に公表した配当予想からの変更なし
- 配当性向30%程度に加えて、10円の周年記念特別配当を実施予定

経営環境の変化に対応すべく、企業体質の強化及び将来の事業環境を勘案したうえで、株主に対して配当性向 30%程度の安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針であります。更に通常の配当政策に加え、業績や財務状態を総合的に勘案の上、周年記念等にあたっては記念配当も実施していく方針であります。

(円、%)	中間配当	期末配当	年間配当	配当性向	備考
2024/6期	6.00	21.75 ^{*1}	27.75 ^{*1}	48.1%	東証スタンダード市場への上場を記念して、1株当たり11円10銭の特別配当を実施
2025/6期 (予想)	6.00	22.00 ^{*2}	28.00 ^{*2}	46.8%	当社設立10期目を迎えるため、期末に1株10円00銭の周年記念特別配当を実施予定

^{*1}: 95. 上場記念配当11.10円

^{*2}: 95. 法人設立10周年記念配当10.00円株予定

28

©TAUNUS Laboratories, Inc.

こちらは、株主還元の方針についてご説明したのですが、2024 年 6 月期決算説明資料から再掲したものであり、株主還元の方針は据え置いております。

当社は配当性向 30% 程度を目安として、安定的・継続的な利益還元を実施していく方針ですが、2025 年 6 月期はグループ再編後の当社設立から 10 期目を迎えることから、記念として 1 株当たり 10 円の記念配当を実施する予定です。

これにより、2025 年 6 月期が業績予想どおりに推移した場合には、記念配当込みで増配の形で、株主の皆様へ利益を還元できるものと考えています。

株式会社タウンズ | 2025 年 2 月 14 日 (金)
197A 東証スタンダード市場

決算説明

直近のトピックス

- 短期の業績に重要な影響を与えるものではないものの、中長期で重要な販売面、開発面での取り組みを実施

目的	コンボ検査キット等の 拡販・シェア拡大	次世代型POCT“デジタル免疫アッセイ (D-IA)”技術の開発進捗	
リリース内容	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 との取引基本契約締結のお知らせ	標的物質の検出方法および試薬 に関する特許取得のお知らせ	ZACROS株式会社との 戦略的業務提携のお知らせ
発信日	2025年1月22日	2025年1月28日	2025年2月6日
内容	2025年1月、当社よりロシュ・ダイアグノスティクスにイムノエース® SARS-CoV-2 III 規格：10テストイムノエース® SARS-CoV-2/Flu 規格：10テストを、販売することを契約 2025年1月最終週より販売開始 - 主にコンボ検査キットのシェア拡大が目的		
主たる関係者/ 相手方	ロシュ・ダイアグノスティクス 株式会社	—	ZACROS株式会社 (旧藤森工業)

29

©TAUNGS Laboratories, Inc.

こちらは、直近のトピックスを記載しました。いずれも成長戦略の実現に資する取り組みとして、ロシュ・ダイアグノスティクス社との販売契約と、D-IA に関する特許取得や業務提携を記載したものです。

前者は主にコンボ検査キットの拡販を狙ったもので、新型コロナウイルス単品検査キットやインフルエンザ検査キット対比でシェアに伸びしろのあるコンボ検査キットを中心に、当社の製品をロシュ社が買い取って販売する、いわゆる“コ・マーケ”方式を採用しました。後者はいずれも当社の今後の成長戦略における中核的な位置づけの一つである、D-IA の開発に貢献する取り組みです。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したもののですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp